NPO地球の緑を守る会/〒158-0097世田谷区用賀4-34-12グリーンハウスNo.2—231号/Tel:03-5717-9358Fax:03-5717-9359/ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://midori.mond.jp/

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成28年(2016)2月10日
No.98
発行　高津啓洋

調布から東京に緑を

１２月２０日、調布ドングリの会では、当会会員とポット苗の整理と、地域の花いっぱいのための花壇整理を行いました。調布市から提供されている地域のための公園で、ドングリからポット苗作りをはじめ、東京湾海の森の植樹会に苗木を多数提供してきました。

出発は、故中田育子さんの植樹に対する情熱から始まっています。

また多くの青年が中田さんの指導によって、育っていきました。

特に、中田育子さんは、宮脇昭先生に師事され、その精神をも含めて、足尾銅山跡地の山の植樹を始め、精力的に植樹活動にかかわってきました。それを、ご主人の中田欣宏さん（当会理事）がお子さんや地域の人と共有して広めています。写真は冬前に、公園の植樹地の整理整頓と平成28年度に向けての準備です。

高津代表が地方巡回

１月の末から２月上旬にかけて、今後の支部活動を展望する目的で、名古屋支部と四国中央支部を訪問しましたので報告します。（報告書から抜粋）

〈名古屋支部〉

名古屋支部の発足は５年前の１１月で、天白区野並にある鎮守の森「八剣社」での、山本力男支部長と仲間たちのドングリ拾いから活動がはじまりました。

支部の建物のすぐ近くにある八剣社の

境内は、高木層がアラカシ、クスノキ、クロガネモチ、亜高木層がモチノキ、ヤブツバキ、低木層がヒサカキ、アオキ、ヤツデの典型的な潜在自然植生の森です。

過去４年間は、この常緑広葉樹の森の再生を目標とし、個人所有の庭へのごく小規模な植樹、定例の環境セミナーや勉強会、県の植樹イベントへの参加、名古屋で学んでいるアジア圏からの留学生を集めての特別セミナーなど、多彩な活動を地道に続けてきました。ふりかえって、活動の継続が一番大切であることを確認しました。

〈四国中央支部〉

四国中央市は、現在長野支部で活動している高津理事長が愛媛在住時、実家の敷地内に苗を栽培しながら植樹活動の拠点としていたところです。タブノキ、アラカシ、スダジイ、ホルトノキなど瀬戸

内沿岸の潜在自然植生の苗18種、約1,000鉢が同じ場所に残されていました。当時から地元で活動をサポートしてくれていた三浦謙吾さんが、２月７日、そのポット苗の管理を引き継ぐ形で、四国中央支部の看板を掲げ、支部の再発足が実現しました。

四国中央市（旧川之江市・伊予三島市）は、新聞紙やティッシュペーパーなど、全国一の紙製品の産地であることから、当然木材資源の消費量も日本一です。巨大企業側の公害対策に対する責任として、防災・環境保全林づくりが急務とされていますが、いまだその動きがないことから、地球の緑を守る会のような環境ＮＰＯの役割が期待されている地域であることは間違いありません。

《支部立ち上げの募集》

地方都市での防災・環境保全林づくり（宮脇方式）は、土地や資金面で、自治体や企業との共同作業になるため、その実施・実現には、５年から10年のタイムスケジュールが必要です。

しかし、地球の緑を守る会の支部活動は、①ドングリ（種）を拾う活動、②ポット苗を育てる活動、③森の環境を観察する活動、④セミナー・勉強会をする活動、⑤施設を慰問する活動など、多様な形をもっています。これらのうち、会員の皆様の事情やその地域の特色に合った活動を一つ選んで支部を立ち上げることが可能です。少しでも関心のある方はチャレンジしてみてください。東京事務局からスタッフが出向し、初めの初めからサポートさせていただきます。

［お知らせ］次回東京でのセミナーは、2016年４月2日（土）「ここまで来た地球環境」セミナーの開催予定。